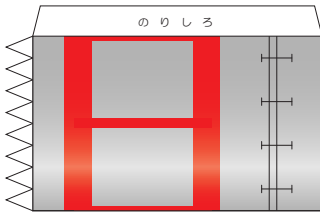
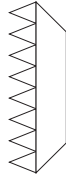


①第2段本体

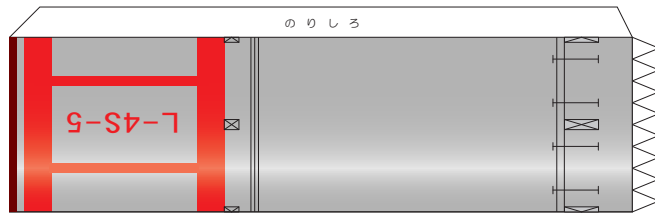


②第1段-第2段のりしろ



— に切り込みを入れ
⑤を差し込んでください

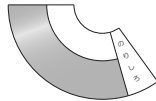
③第1段本体



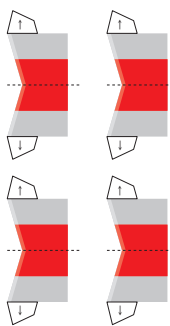
— に切り込みを入れ
⑥を差し込んでください

こちら側ののりしろは筒の内側に折り込んでください。あとから⑦を取り付けてください。

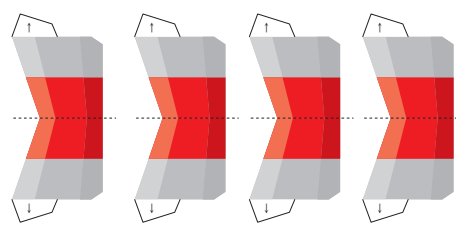
④第2段-第3段継ぎ手



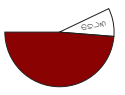
⑤第2段尾翼



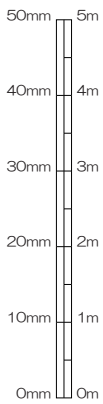
⑥第1段尾翼



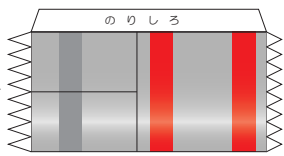
⑦ノズル



色の付いた面を内側にして接着してください。

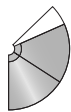


⑧第3段・フェアリング

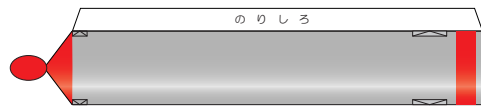


こちら側ののりしろは筒の内側に折り込んでください

⑨ノーズコーン



⑩ブースター



⑩ブースター



ブースターの印と本体の印を合わせて接着してください。

ペンシルからラムダへ

戦後の日本ロケット開発は、1955年の東京大学生産研究所によるペンシルロケットの水平発射実験で幕が開きました。長さ230mm・直径18mmの小さなロケットは、その後「カッパ」「ラムダ」といった観測ロケットに発展し、ラムダ3 (L-3) 型を改良したラムダ4S (L-4S) によって人工衛星への挑戦が始まります。1966年に始まったL-4Sは、しかし「産みの苦しみ」とも言える苦難の道を歩むのでした。

ペンシル 1955 →

ペンシル300 1955 →

2段式ペンシル 1955 →

ベビー 1955 →

カッパ1 1956 →

カッパ6 1958 →

カッパ8 1960 →

ラムダ3 1964 →

